

お わ り に

理事 狛江研究所長 福島 充男



私たちの生活にとって、電気は水や空気と同じように、今や、なくてはならない存在となっている。このように便利で安全な電気に伴う電磁界が、私たちの健康に「何の影響もなく安全」であることを、「科学的に完全に証明」できたらどんなに良いであろうか。しかし、「ない」ことの完全な証明は、残念ながら、一般的に不可能である。逆に、「ある」の証明は容易で、たとえ一例でも、「ある」ことが実証できれば、それで証明終わりである。しかし、「ない」の証明では、ほとんど全ての場合について実証が完了しても、さらに、このような場合はどうか、あのようなケースではどうかという疑問が残る。原

理的には疑問は無限に存在し、「ない」の実証は無限の努力の連鎖となる。また、数十年間も曝露した時の影響などは、現実的には検証不可能であろう。フェルマーの大定理や四色問題など、「ない」ことを科学的に厳密に証明できる数学の世界がうらやましい。しかし、その数学でも「公理系に矛盾のないことの証明は不可能」という、ゲーデルの不完全性定理がある。

そこで、もし、私たちの身の回りの電磁界が、健康に何らかの影響があるとすれば、十分に高いレベルの電磁界に対しては、その現象が明確に、かつ短期間で顕れるであろうと考えてみた。そして、そのような現象が、身の回りのレベルの電磁界でも発現するかを、科学的に検証することにした（研究作業仮説の設定）。また、すでに疑問が提出されている現象についても、独自の実験や論文の詳細な評価により、一つひとつ検証してきた。この結果として、「少なくとも現在の生活および職場環境における商用周波数電磁界が、健康に悪影響を与えるという科学的根拠はない」との認識に達した。

これが現時点での、合理的な努力の範囲での、われわれの結論であり、二十数年間にわたって進めてきた電磁界研究に、一応の区切りをつけたものと信じる。もちろん、今後とも、世界の最新情報に鋭敏にアンテナを巡らす努力を継続し続けることは言うまでもない。

ここに至るまでに、「電磁界研究評価委員会（委員長；加藤正道北海道大学名誉教授）の委員の先生方をはじめ、大学、官、そして電気事業からの、多くの方々のご指導、ご助力を戴いた。厚く感謝申し上げるとともに、今後とも引き続き、ご支援、ご鞭撻を賜るようお願い申しあげたい。